

# 栃木市市民会議 会議要旨

会議名：市民会議自治基本条例部会（第5期 第2回）

日時：令和4年3月25日（金） 午後7時～午後8時40分

会場：市役所 501会議室

出席者数：12名、事務局：2名、地域まちづくりセンター等担当職員：10名

## 1 開会

## 2 部会長あいさつ

## 3 議事

### 1 地域自治の検証について

#### 《事務局より説明》

#### 【質疑】

委員：栃木西部地域会議で、平成30年度から開催しているまちづくり塾について、効果はあったか。

担当：それぞれの年で地域の歴史について話を聞いたり、水害の経験から避難について考える場を設けたりした。参加者には好評であり、ハード事業が多かった中でソフト事業として開催できたことはよかった。

委員：栃木西部地域のまちづくり実働組織は、地区によって性質が異なるように思うがそれぞれの特徴を伺いたい。

担当：皆川地区は、皆川城址がシンボルであり、今後も城址中心に活性化していく。

寺尾地区は、中山間地域で、少ない人口だが地域の結束力が強い。

吹上地区は、設立が一番古く、それぞれの委員会が活動実績を残している。

どの地区も、武器にすべきものを持っているので、今後もそれを見失わずに、いかに活かしていくかが重要であると考えている。

委員：平成27年に、栃木中央地域と岩舟地域からそれぞれ自主的審議事項の意見を市へ提出しているが、どこまで市政へ反映されたのか。庁内の会議で共有・検討はされるのか。

担当：所管課に提供し、市長への意見を伝えている。必ずしも意見が採用されるというわけではない。また、市の回答を当時の地域会議へ送付している。

#### 【各地域の現状】

- ・栃木中央（委員）：『栃木中央地域災害ガイドブック』を作成した。作成過程でも学ぶことが多々あった。また、これを機に実働組織が設立された。今後の活動に当ガイドブックを活用していく。
- ・栃木東部（委員）：市へ用途地域の変更の要望をし、高層建築物可となった区域がある。今後の地域発展につながる働きかけができた。
- ・栃木西部（担当）：地域内の課題として中学校統合という重い課題がある。地域会

議は各地区の代表が集まる場であるので今後も取り上げていきたい。

- ・大平地域（委員）：課題として、子どもの安全や、高齢者、外国人とのコミュニケーション、観光PRなど様々な意見が出るため、目玉事業を絞り込みにくい。他の地域の継続事業も参考としたい。
- ・藤岡地域（委員）：渡良瀬遊水地のキャラクターの動画を作成した。動画作成の継続や、動画により本地域の市内外でのPRを考えている。今後も遊水地メインに活動していく。
- ・都賀地域（委員）：2つの部会で地域の課題を検討している。また、地域唯一の観光資源である、つがの里の蓮池再生整備事業を主に続けている。
- ・西方地域（担当）：これまではふれあいパーク整備が主だったが、今年度は真名子地区の観光資源である八百比丘尼堂をPRすることとなり、令和4年度に案内看板の設置を行う。
- ・岩舟地域（委員）：歴史（円仁）や岩船山などの地域資源を活用していく。実働組織は社協と共通する活動が多く、一緒に部門ごとに活動している。特に高齢者の買い物支援は、利用者に好評なので続けたい。

## 【委員からの意見】

### ○地域会議について

- ・地域予算提案事業を選定する作業の比率が大きく、地域内の課題を取り上げて市に意見するところまで至らない。
- ・委員からの提案が多く、地域予算提案事業の絞り込みに苦慮している。
- ・地域住民の意見がプロセスに基づいて市政に反映されることは重要である。
- ・全ての地域会議から出た意見を一覧にするなど集約してまとめるものが必要である。また、その意見に対してどのような対応がなされたのかについて回答・フォローアップする仕組みが必要ではないか。
- ・今までの活動が住民にどう受け止められているのか。（フィードバックの必要性）
- ・地域会議は、地域住民の意見を市に提出する役割と、行政側から問題提起があったことを地域として考える役割がある。

### ○まちづくり実働組織について

- ・リーダー役を引き継ぐ時期を考えているが次世代の成り手がいない。
- ・実働組織の活動が長期に続いている中で、次世代のリーダーをどのように育成し活動を継承していくべきか。

### ○全般について

- ・コロナ禍で活動や意見交換が思うようにできず停滞している。
- ・将来にわたって持続可能な地域づくりを営むためには、ある程度長期的な視野に立って考えていく必要がある。
- ・本市は合併後10年を経過したが、各地域それぞれの特性を守り継承して活動を続けているのは素晴らしいことであり、地域コミュニティの重要性からも今後も

地域の個性や特徴を残していったほしい。

- 合併による統一性と、それぞれの地域性（ダイバーシティ）とうまくバランスをとって活動している。コロナ禍で活動自粛が続いているが、活動内容を見直すなどして活動を活性化、啓発していく時期ではないか。
- 地域会議や実働組織ではないが、有志の団体で美化活動（花いっぱい活動）を行っている。20年ほど続けているためメンバーが高齢化しており、活動を引き継ぐ方がなかなかおらず困っている。
- (上記の意見を受けて) 地域からの活動提案を地域会議で取り上げたり、実働組織の会合で議題として共有したりできるとよい。
- 予算を伴わない活動や各地域の目玉事業など、横の情報を全地域会議が共有できるような会合・仕組みづくりは今後の課題である。

#### 4 その他

令和4年度の部会は3回程度予定。また、5月に全体会を予定。

#### 5 閉会